
中目黒どろんこ保育園

令和4（2022）年度

福祉サービス第三者評価結果報告書

株式会社 学研データサービス



1. 東京都第三者評価推進機構提出内容

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)「にんげん力」を身に付けるために必要な遊び・野外体験を提案実践し”自分で考え、行動する思考”を育みます。 2)10より100の経験を与え、子どもが”したいと思う活動”を安全に行えるように見守り、支援してゆきます。 3)”感じたこと・考えたこと”を言葉でジェスチャーで、表情で、描いて、造って、表現できる子どもを育成します。 4)「0を1にかえる力」を日本中の子ども達につけ、物事を投げ出さずに向き合う若者が社会を支える世の中を創ります。</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育現場で求める人物像 現状に満足せず自己の成長を常に意識している人 やって見せ、背中で教えてゆける人 より良い保育を目指して創意工夫していける人 ・社会人としての質向上 忙しさや大変さを表情や口調に出さず、いつでも笑顔で心がける。お願いします、ありがとうございます、など仕事中的言葉遣いに注意し、正しい日本語を身に付ける。子ども全体を見て自分が今、何をすれば良いのかを判断して、自ら行動したり、提案する。 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士としての質向上 子どもの命を預かる重みを自覚し、守らなければいけないことを遵守し、常に平常心で子どもと接する。後輩には自分の知識を教え、育てる気持ちを持ち、一人ひとりがリーダーになるという気持ちで責任を持って保育を行う。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	「命あるものを食している」ことを体験的に知り、食の循環の体験など、食への興味関心を高められるよう食育に取り組んでいます
	内容	「命あるものを食している」ことを体験的に知り、食への興味関心を高められるよう食育に取り組んでいます。かぶやブロッコリー、いちごなど、園の前のプランターや園で借りている畑での栽培、園で飼っているやぎ、うさぎの世話などを通して、子どもたちが働くことや命や食べ物について気づくことができる環境があります。また園庭で取れるみかんでみかんシロップを作ったり、野菜を洗って皮をむいたりするなど、子どもたちが栽培した物を調理する機会が豊富にあります。残菜を肥料にして畑で使うなど、食の循環を体験して学んでいます。
2	タイトル	園の前に子どもたちがお店を出し、園で取れた作物などを売る「NDはにーぽっと」活動など、経済活動について学ぶ場があります
	内容	動物の世話など、さまざまな当番や係を決め、「お手伝いカード」を作ってスタンプを集めるなど、楽しむ工夫をしながら、子どもたちが責任を持って園内の仕事をしています。商店街ツアーとして近隣のお店や公共施設に向き、そこでの仕事を見ることで、さまざまな職業や仕事について知る機会があります。月に1回程度、園の前に子どもたちがお店を出し、園で取れた作物などを売る「NDはにーぽっと」活動があります。ここでの価格決めの際には、近隣のスーパーで値段を確認し、実際にお金のやりとりを通して経済活動について学ぶ場としています。
3	タイトル	事務作業に専念できる時間、職員相互に助け合う仕組みなど、働きやすい労働環境構築に向けた取り組みを進めています
	内容	働きやすい労働環境構築に向け、多様な取り組みを進めています。有給休暇100%取得のため、有給取得調整表を作成し管理しています。昼休憩を1時間きちんと取れるよう休憩取得チェック表で管理し、休憩時間を保障しています。「記録の時間」として書き物など事務作業を行える時間を、職員ごとにシフト表に入れて、しっかり作業が行えるようにしています。また各職員の現在抱えている業務を、重量級、軽量級に分けてタスク表として貼りだし、手の空いた職員はタスク表に自分が手伝えることを表示して、職員相互に助け合う仕組みを構築しています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	降園時の「3分間対応」では、対応の内容はどうなのかや、保護者への伝え方などについて、今一度改善の検討をしてはいかがでしょうか
	内容	降園時には「3分間対応」として、その日の子どもの様子をなるべく詳しく保護者に伝えていけるよう取り組んでいます。シフト等により、担当する職員が対応できない場合にも子どもの様子を引き継ぎ、伝えることができる体制があります。しかし、今回の調査からは、けがの報告や子ども同士のトラブルをはじめ、伝えられた連絡内容に保護者から不安の声が少なからずあげられていました。単にその日にあったことを伝えたり、3分間話すだけにとどまらず、3分間対応の中身はどうなのか、その内容や伝え方について今一度検討してみてもはいかがでしょうか。
2	タイトル	職員も巻き込み、専門的な知識と技術についてテーマを選び、系統的な園内研修を行ってはいかがでしょうか
	内容	園の職員は相互に信頼関係を築き、取り組みへの意欲があります。しかし若く経験不足の職員もおり、具体的な保育を進める際に、根拠を明確にできずにすすめられる場面もあります。そのような中で、園は、発達課程とその連続性を理解し、子ども一人ひとりを大切にできる保育ができるよう職員が成長することが必要と考えています。例えば「保育所保育指針」の解説の6つの専門的な知識と技術などからテーマを選び系統的な園内研修を行ってはいかがでしょうか。その際、職員を巻き込み、受け身ではない研修にすることも考慮してはいかがでしょうか。
3	タイトル	園はいざという場合に備え、体制を整え訓練を実施していますが、今後は事業継続計画の内容をさらに充実させるとよいでしょう
	内容	園は災害(地震を含む)、事故(置きざりなどを含む)、不審者などのリスクに対し、危機管理マニュアルでそれぞれの対応フローチャートを策定し、避難などの初動対応、被害状況把握、保護者などへの連絡体制を明示し、職員、保護者に周知しています。また、地震、火災、不審者などのリスクのさまざまな場合や発生場所を想定した避難訓練や引き取り訓練を実施しており、施設長をトップにした自衛消防隊も組織し、いざという場合に備えています。今後は事業再開の手順を含む事業継続計画を実際の場面で使いやすくするよう、さらなる充実を期待します。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル①	「どろんこ会議」として、子ども同士で話し合いを持つ時間を定期的に設けています	
内容①	子どもの表情やしぐさを見ながら話しかけたり、共感したりする応答的なかわりをする中で、安心して自己表現できるよう努めています。5歳児になると、「どろんこ会議」として、散歩先や行事の内容など、テーマを決めて子ども同士で話し合いを持つ時間を定期的に設けています。月に一回、5歳児で献立を決められるので、そのための話し合いもされています。異年齢での保育を基本としていることから、どうすれば年齢が違って楽しく遊べるのか、どんなルールを作ればいいのか、といったことを子ども同士で話し合い、解決を図る姿があります。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	3-3-2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている
タイトル②	地域の福祉ニーズをもとに地域子育て支援計画を立て、子育て支援に取り組んでいます	
内容②	区や見学者などから、地域の福祉ニーズを把握し、ニーズをもとに地域子育て支援計画を立て、子育て支援に取り組んでいます。子育て支援のニュース「ちきんえっぐ」を発行し、一時保育参加の親子などの地域の子育て家庭に配付しています。また、園の取り組みをチラシにして公園で地域の親子や園の見学者に配付しています。毎日のように開催する園庭・屋上開放、育児相談、毎週水曜の親子でクッキングを楽しむ自然食堂、毎週金曜に製作活動を行う芸術学校などを開催、一時保育も9月現在で参加は217名となり、地域の子育て家庭に喜ばれています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル③	施設長は個々の職員の成長とチーム力発揮のためリーダーシップを発揮しています	
内容③	施設長はチーム力発揮に向けリーダーシップを発揮しています。各リーダーに会議運営や記録など役割を交代で与え、組織運営を経験させています。職員間で話し合い主体的に考えるプロセスを大切にしています。配置表で各職員のしていることを時系列で見える化し、職員が自らすべきことをわかるようにしています。また、各職員の保育がわかるよう写真とコメントを職員同士で共有しチーム保育につなげる「中スタ」(中目黒とSNSの名前による造語)を立上げました。これらを通じ職員相互の信頼関係の構築と組織力向上につながっています。	

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	あり	◆1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
	あり	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
あり	◆1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	
あり	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	
評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
あり	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	
あり	◆2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	
あり	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	
カテゴリー1の講評		
公表コメント	職員会議や保護者懇談会などで、理念である子ども主体の保育について説明しています 「私たちの子育て」(保育理念)に「自分で考え行動」できる子ども主体の保育と、全職員が全ての子どもを保育する家庭的な「大きな家」を掲げています。運営理念・子育て目標などは、全職員配付の「保育品質マニュアル」に掲載し、職員会議などで理解を深めます。保護者には入園説明会や保護者懇談会で資料を使って説明し、理念・保育目標などをファイリングし玄関に設置しています。ドキュメンテーションを毎週作成し、0～2歳児はクラスごとに、3～5歳児は異年齢保育の様子を、玄関に掲示し理念に基づく保育を保護者に伝えています。	
	施設長は園業務を統括し、リーダー層と連携して園の運営全般をリードしています 園の運営規程や保育品質マニュアルの「職務担当者の役割及び役割」に園長は園業務を統括することが明記されています。施設長は施設長、主任、幼児リーダー、乳児リーダーで構成するリーダー会議、職員会議などを通じ園運営をリードし、事業報告、事業計画も策定します。指導計画作成の指導、保護者の対応、人事労務管理なども主任と連携して管理しています。施設長は区との連絡窓口となり、公私立園長会に出席します。どろんこ会グループの施設長会議にも出席し、園の運営について報告し、グループとの調整業務も担うなど園全体をリードしています。	
	人事、遊具や絵本導入などの重要事項は、経緯を職員や保護者に周知しています 事業計画や事業報告の作成は、全職員の参加で、1月のふりかえり会議、2月と3月の策定会議などで職員の意向を確認した上で施設長が起案し、保部の了承を得た後、職員に周知します。重要な案件の内、子どもや保護者に大きくかわる人事、遊具や絵本などの新規導入、労働環境の改善などは、リーダー層や職員の声を踏まえて決めます。保護者への情報提供文書「ポートフォリオ」は保育士の業務負担軽減のため簡素化しましたが、その際には職員会議で経緯を説明しました。保護者への周知事項は園内掲示や保育アプリのお便り機能を使い配信しています。	
非公表コメント	カテゴリー1の講評補足 園のパンフレットと全体的な計画では表記が異なっているので、統一してはいかがでしょうか。パンフの「子育て理念」は「保育理念」に、「子育て目標」は「保育方針」となっています。職員、保護者にわかりやすく伝えるように、言葉を統一してはいかがでしょうか。	

2		カテゴリ-2	
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行			
サブカテゴリ-1(2-1)			
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			評点(000000)
評価	標準項目		
あり	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している		
あり	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している		
あり	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している		
あり	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している		
あり	5. 事業所の経営状況を把握・検討している		
あり	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している		
サブカテゴリ-2(2-2)			
実践的な計画策定に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している			評点(000)
評価	標準項目		
あり	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している		
あり	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している		
あり	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている		
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる			評点(00)
評価	標準項目		
あり	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している		
あり	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる		

	<p>カテゴリー2の講評</p>
<p>公表コメント</p>	<p>様々な経路で園内外の環境を把握し、地域の子育て支援など園の課題を抽出しています</p> <p>保育アプリを使った毎年9月の利用者アンケートやご意見箱、保護者との会話などから保護者の意向やニーズを把握しています。職員会議などから園運営への意見や意向を把握しています。一時保育の参加者から育児相談などの子育て支援ニーズや区の公私立園長会などから認可保育園が増加傾向にあり子どもの確保の厳しい外部環境など福祉事業の動向を把握しています。どろんこ会グループの施設長会議で提示された財務資料によりグループや園の経営状況も把握しています。把握した情報から、子育て支援や保育士の育成など、園の課題を抽出しています。</p>
	<p>抽出した課題に基づき、3か年の中期計画と事業計画を策定しています</p> <p>園の中長期計画は年度事業計画の最後に、「3か年計画」として策定しています。事業計画は3か年計画を踏まえつつ、前年度の「ふりかえり会議」、保育計画などの「策定会議」を経て、保育内容の充実の質の向上、保護者支援、地域の子育て支援事業、職員の育成の取り組み、子どもの人権の配慮、子どものSDGsの取り組みなどの項目で策定し、抽出した課題を事業計画に具体化しています。どろんこ会グループ作成の予算管理表などに基づき、職員の意見を踏まえた上で、施設長が計画に必要な予算についてはグループに相談・確保し計画を進めています。</p>
	<p>計画の目標は達成度合の指標を定め、計画の確実な実行に取り組んでいます</p> <p>事業計画は年度ごとに、衛生管理、安全対策、生き物・植木、内部監査などの各係やプロジェクトを決め、これとは別に行事、誕生会、食育体験、地域子育て支援などの職務分担表に基づき、全職員がそれぞれを担って計画を推進しています。計画の進捗は毎月の職員会議や、年度末のふりかえり会議（職員会議）で確認します。計画の推進においては職員の昼休憩1時間を必ず取ることを目標に休憩取得チェック表で管理したり、一時保育は一日2名以上の参加、全職員が法人スキル講座に参加することなど、さまざまな指標を設け、達成度合いを確認しています。</p>
<p>非公表コメント</p>	<p>カテゴリー2の講評補足</p>

3		カテゴリ-3	
経営における社会的責任			
サブカテゴリ-1(3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2	
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる			
評価		標準項目	
あり	◆1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる		
あり	◆2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している		
サブカテゴリ-2(3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4	
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている			
評価		標準項目	
あり	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		
あり	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている			
評価		標準項目	
あり	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		
あり	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		
サブカテゴリ-3(3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5	
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる			
評価		標準項目	
あり	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		
あり	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの見学・実習の受け入れ体制を整備している		
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている			
評価		標準項目	
あり	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		
あり	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		
あり	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		

	<p>カテゴリー3の講評</p>
公表コメント	<p>視点を職員間で確認しながら、子どもの権利擁護に組織的に取り組んでいます</p> <p>個人情報保護や守秘義務などのコンプライアンスは、全職員配付の保育品質マニュアルの人権擁護、就業規則を使って周知しています。また、年4回「児童・保護者の人権に関するチェックシート」で職員が自己点検を行い、人権擁護の理解と遵守について確認し、他施設の不適切事例について保育の質を向上させる会議(職員会議)で共有します。苦情解決制度は園のしおりに掲載し入園説明会でも保護者に周知しています。家庭での性教育をどう行うかわからないとの保護者要望には推薦図書を紹介するなど職員会議で話し合い、解決に取り組んでいます。</p>
	<p>虐待防止に向け、自己点検や保育品質マニュアルを活用し、組織的に取り組んでいます</p> <p>虐待防止に向け、保育品質マニュアル掲載の虐待の4類型や虐待の疑い、発見の場合の手順について、職員会議で共有しています。「人権に関するチェックシート」に沿って、「制止する言葉を不必要に使わない」「トイレを強制しない」「待たせない」など虐待防止について折に触れ話し合っています。また、早期発見チェックリストを活用し、虐待を早期発見ができるように職員全体で心がけ対応しています。虐待の疑いがある場合にはどろんこ会グループの基準をもとに相談し、区の保育指導課と連携できる体制を整え、組織的に防止に取り組んでいます。</p>
	<p>病児保育を行う園への看護師配置を園長会として要請するなど協働して取り組んでいます</p> <p>園のホームページに園便りや園の年間スケジュール、地域の子育て支援の取り組みのニュース「ちきんえっぐだより」を掲載して、地域の方々に発信しています。実習生、ボランティアの受け入れの手引きに基づき、保育専門校の実習生や小中高生の保育体験のボランティアを受け入れています。2階の子育てスペース「ちきんえっぐ」での親子で、クッキングができる自然食堂、園庭開放など子育て支援の取り組みを行っています。区の公立・私立園長会の会議に参加し、病児保育のある区内保育園に看護師配置を要望するなど協働して取り組んでいます。</p>
非公表コメント	<p>カテゴリー3の講評補足</p>

4		カテゴリ4	
リスクマネジメント		サブカテゴリ1(4-1)	
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5	
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)	
評価	標準項目		
あり	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている		
あり	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている		
あり	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している		
あり	◆4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解し対応できるように取り組んでいる		
あり	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる		
		サブカテゴリ2(4-2)	
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4	
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)	
評価	標準項目		
あり	◆1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている		
あり	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している		
あり	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている		
あり	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している		
カテゴリ4の講評			
公表コメント	リスクに優先順位をつけ、それぞれのリスク対策を立て対応できるようにしています		
	園はリスクを洗い出し、災害(地震を含む)、事故(おきざりなどを含む)、不審者の順に優先順位をつけています。危機管理マニュアルで、災害、けが(事故)、不審者のそれぞれの対応フローチャートを策定し、避難などの初動対応、被害状況把握、保護者などへの連絡体制を明示し、職員、保護者に周知しています。災害では消防署、不審者対応は警察署などと園の対応を共有し連携しています。避難訓練計画では引き渡し、帰宅困難者対策などを策定しています。事業継続計画はありますが、実際の場面で使いやすくなるよう、さらなる充実を期待します。		
	事故報告制度に基づき、原因究明と再発防止に全職員で取り組んでいます		
	事故発生の場合は速やかに子どもや保護者への対応処置を行い、事故記録簿に記録し、どろんこ会グループとも共有します。原因究明と再発防止策について緊急のミーティングも含め全職員会議で話し合います。軽微なけがの場合はインシデント報告、事故にならずに済んだ場合はヒヤリハット報告に記録し、これらの報告書は施設長など4人の職員で構成する毎月の事故予防防止委員会で1か月ごとの統計も参考に要因分析し、事故の再発防止、予防に努めています。その内容は全職員に回覧し職員間で共有化し再発の防止に組織的に対応しています。		
非公表コメント	園情報を管理する仕組みを構築し、情報の管理と活用ができるようにしています		
	園の運営規程や内部監査チェック表の「帳票保管方法・保管期限」に文書の保管期限、廃棄について明示し、職員に周知し、文書を管理しています。経営に関する情報は鍵付き書庫に保管し、必要な職員が使えるようになっています。園は文書の電子化を進め、電子文書を取り扱うPCはID、パスワードでアクセス権限を管理し、使わないPCはキャビネットに保管します。どろんこ会グループのプライバシーポリシーには個人情報の利用目的や開示請求への対応を明示しています。職員、実習生やボランティアにも守秘義務の誓約書を提出してもらいます。		
カテゴリ4の講評補足			

5		カテゴリ5	
5		職員と組織の能力向上	
		サブカテゴリ1(5-1)	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12	
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
あり	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		
あり	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
あり	◆1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		
あり	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
あり	◆1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		
あり	◆2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		
あり	◆3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		
あり	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
あり	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		
あり	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		
あり	◆3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		
あり	◆4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		
		サブカテゴリ2(5-2)	
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3	
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
あり	◆1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		
あり	◆2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		
あり	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		

	<p>カテゴリー5の講評</p>
公表コメント	<p>採用サイト、実習生、都や民間の保育フェアなどを利用し工夫して人材を確保しています</p> <p>自己の成長を意識的に追求し、良い保育を目指し創意工夫するという人材像に基づき、ホームページ、採用サイト、実習生、都や民間の保育フェアなどにより人材を確保します。採用は、面接は本部人事採用部、施設長が一緒に行い、本部人事採用部が決定します。採用後、経験や本人の性格、クラス担当との相性などを考慮し配置します。キャリアステージ(階層)と職務遂行能力による給与等級と職員の評価制度によるキャリアパスを文書で明示し、職員に周知しています。また評価制度と連動した職員の課題に基づく人材育成に取り組んでいます。</p>
	<p>施設長面接による評価から職員の課題を抽出し、個人別研修計画につなげています</p> <p>職員の経験、課題に応じどろんこ会グループの制度研修、外部研修、園内研修に全職員が参加し、非常勤職員も園内研修を受講します。毎年度始めの施設長による職員面接で個人目標を確認し、年度途中2回、年度末の計4回の面接で目標の達成度を確認します。達成度の評価により、査定が行われます。評価から職員ごとの課題を抽出し、個人別育成計画につなげています。主任には力を発揮できるようグループの主任会議に出席させたり、施設長が保育やマネジメントの指導をしています。職員は研修受講後は研修報告書を提出し、回覧により情報共有します。</p>
	<p>働きやすい職場環境への配慮、職員の意欲向上、良好な人間関係構築にも努めています</p> <p>勤務時間や休暇取得のデータを基に、施設長が休暇や残業などの労務管理を行うとともに、シフト体制を作成します。有給取得調整表やシフト表などによる働きやすい職場環境に配慮しています。施設長面談で翌年度の意向や個人のキャリアプランなどを把握し、次年度の業務配置に生かします。勤続年数によるアニバーサリー休暇制度の導入や福利厚生団体の加入し、福利厚生にも力を入れています。施設長による面接や職員への声かけなど、人間関係の構築にも配慮しています。委員会やプロジェクトを組織し課題解決に向け組織力の向上に取り組んでいます。</p>
非公表コメント	<p>カテゴリー5の講評補足</p>

カテゴリ7	
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動
サブカテゴリ1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1	事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
<p>2021年度の食育方針の中で「食欲と意欲を育てる」を掲げ、食育計画の中で、年齢や月齢に応じて、園庭で野菜を育て、収穫した食材を調理する、野菜洗いや葉物ちぎりなどの経験を通じて、食材の名前を覚えたり、色彩や香りに興味を持つなど食べる意欲をはぐくむことを方針に取り組みました。園庭でさつまいも、いちご、夏野菜などを育てましたが、園庭での栽培類は全てハクビシンの被害にあい、枯れてしまいました。そこで、園庭での栽培を断念し、近隣に畑を借りることにしましたが、なかなか適所が見つからず年度内に探すことができませんでした。食べる意欲をはぐくむという目標をめざして取り組みましたが、結果として達成することができなくなりました。今年度は近隣に畑を借りることができ、昨年の方針・目標を掲げるとともに、園庭ではなく、畑やプランター、屋上などで取り組むことにしました。屋上で水耕栽培に取り組み、0歳が種を撒き、たくさんのスプラウトが育ちました。畑では、いも、いちご、夏野菜が育ち、トマト、きゅうりなどを幼児がクッキングに使い、喜んで食べていました。今年度掲げた取り組みはおおむね実施でき、子どもたちの食欲と意欲を育てることにつながりました。</p>	
目標の設定と取り組み	具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
取り組みの検証	目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
検証結果の反映	次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評	
<p>昨年度は取り組みがハクビシンの被害によりうまくいかなかったのですが、今年度は畑を借りることができ、さつまいも掘りや0歳児も水耕栽培なら取り組めることがわかるなど取り組みの幅も広がりました。4、5歳児が地域のスーパーで値段の調査をした上で収穫した大葉を、5枚100円で、玄関で販売するなどの新たな取り組みにつながりました。保護者からもこの取り組みは喜ばれ、職員も取り組みを通じ、保育における農業の力を改めて確信することができました。また、食育の視点から、地域の子育て支援事業の一環で行っている、自然食堂の機会も増やすことにつながりました。自然食堂は予約が必要ですが誰でも参加できる親子でクッキングを楽しむ取り組みで、月2回行っています。園の子どもが畑で育てたさつまいもを茶巾にしたり、園庭で育てたみかんを収穫し、切って中身の観察をしたりする地域の親子が楽しむ取り組みです。</p>	
非公表コメント	カテゴリ7評価項目1の講評補足

<p>評価項目2 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p>	
<p>2021年度、事業計画で保育所を利用する子どもの保護者支援、一時保育や支援室「ちきんえつぐ」を拠点とした地域の子育て家庭の支援を掲げ、保護者との信頼関係の醸成、地域に開かれた子育て支援を旨としました。しかし、昨年度は新型コロナウイルス感染症の対策で、保護者の入室制限を十分に取れませんでした。地域の子育て支援の取り組みでも、一時保育は年間を通じて27名にとどまり、自然食堂は参加0、青空保育も参加2名にとどまりました。今年度は一時的に新型コロナウイルス感染症の対策が緩和され、園の保護者支援では、園での子どもの生活を保護者が目で見てわかるように写真を多用したドキュメンテーションを、0～2歳児はクラスごとに、3～5歳児は異年齢保育の様子を、玄関に毎週更新して掲示し、理念に基づく保育を保護者に伝え、保護者から歓迎されました。また地域の子育て支援に関する情報をチラシにして、公園で地域の方々に配布したり、園見学者を子育て支援の取り組みにお誘いをしました。その結果9月現在で一時保育参加は217名と大幅に増加し、自然食堂は毎回参加者が来ており、青空保育も少しずつ参加者が戻ってくるなど、地域の子育て家庭に喜ばれています。</p>	
<p>目標の設定と 取り組み</p>	<p>具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</p>
<p>取り組みの検証</p>	<p>目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</p>
<p>検証結果の反映</p>	<p>次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</p>
<p>評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p>	
<p>昨年からの取り組みを通じ、公園に散歩の際に4、5歳児が地域の年齢の小さい子どもに対し、優しいしぐさを示したり、園内では人見知りの子どもが、公園であった地域の子どもに「一緒に遊ぼう」と呼びかけることができるなど、子どもの心の育ちにつながりました。子どもたちは園外の子どもとの交流により刺激を受け、少しずつですが、豊かな人間関係を構築できるように成長を確認できました。保護者からも「こんなこともできるんだ」と子どもの成長を実感し、今後の育ちの見通しがもてるようになっていきます。</p>	
<p>カテゴリ7評価項目2の講評補足</p>	
<p>非公表 コメント</p>	

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
あり	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	
あり	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	
あり	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	
あり	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	
サブカテゴリ1の講評		
公表コメント	入園を検討している方に向けた園の情報がホームページから見るができます	
	入園を検討している方に向けた園の情報がホームページで見ることができます。園のページには、連絡先や運営時間、年齢ごとの定員といった基本情報が掲載され、さらに保護者に配布している年間行事計画や園便り、保健便り、食育便りなども見ることができます。また行事や保育活動の様子がブログ記事として掲載され、今回の調査時には10月に行われた運動会の様子が、当日に向けた準備の取り組みとともに見ることができました。どろんこ会グループのホームページでは、グループが大切にしている考えや系列園でのさまざまな活動を見ることができます。	
	入園のしおりには、園の考えがその活動内容などとあわせて書かれています	
	区内保育施設の定員や開所時間、所在地が区のホームページに掲載され、園ごとの空き情報が毎月更新されています。入園の申し込み方法についてもいねいなしおりが作成され、ホームページには「保育施設申し込み案内」として動画による説明があります。園の情報が掲載された入園のしおりが区の窓口や児童館、子育て拠点に置かれており、さらに近隣の産婦人科などにも置くことを検討しています。ここには園の保育についての考えや「私たちが育てる6つの力」として大切にしていることが、その活動内容などとあわせて詳しく書かれています。	
非公表コメント	園の見学を希望する場合には、電話やホームページから予約することができます	
	園の見学を希望する場合には、電話やホームページから予約することができます。希望する日時をお聞きし、園児が散歩に行っている時間に園内の様子をゆっくり見ていただいたり、園児がいる時に子どもの様子とあわせて見ながら説明したりというように調整しています。園内の案内は施設長もしくは主任が行い、どろんこ会の保育の特徴として、異年齢での保育や畑活動と食育の取り組みなどについていねいに説明しています。急な来園でも入園のしおりを渡した上で、できるだけいねいな対応をするよう努め、可能であれば当日の見学にも対応しています。	
サブカテゴリ1の講評補足		

サブカテゴリー2	
2	サービスの開始・終了時の対応
サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6	
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
あり	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している
あり	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている
あり	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
あり	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している
あり	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している
あり	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている
サブカテゴリー2の講評	
入園が決定した方には、2月ころに「入園説明会」を開催しています 入園が決定した方には園から手続きについての書類をお送りし、2月ころに「入園説明会」を開催しています。ここでは「入園のしおり」に基づき、園での生活や入園に際しての準備、注意事項などについて説明しています。この時に個別面談を行い、家庭での生活の状況や要望、特に配慮して欲しいことやアレルギーの有無などについてお聞きし、その内容を「入所前面談票」に記録しています。この時、重要事項説明書の内容についても保護者に一つ一つ確認しながら職員が読み上げて説明し、その理解を署名捺印をもって確認しています。	
公表コメント	入園前の面談は必要に応じて、栄養士や看護師、担当職員や施設長が対応しています 入園に際しては、インターネット上に家族構成や生育歴、授乳や離乳食の状況、緊急時の連絡先などの基本情報を登録してもらい、写真や動画の利用といった個人情報の取り扱いについても、ここで同意をいただいています。入園前の面談では、食べ物などのアレルギーや離乳食の進み具合、医療的配慮など、必要に応じて栄養士や看護師が面談し、また育ちに関することについては担当職員や施設長がていねいに聞き取っています。「入園前面談票」に記録した内容と合わせて職員でそれらの情報を共有し、園全体で円滑に受け入れられる体制を整えています。
	入園直後は子どもの様子を見ながら、徐々に園での生活に慣れていきます 入園直後は子どもの様子を見ながら、1～2時間を園で過ごすところからはじめ、食事ができる、午睡ができる、というように時間を延ばしていくことで、徐々に園での生活に慣れていけるよう取り組んでいます。0、1歳での入園が多いことから、1～2週間と幅を持たせることで一人ひとりの状況に合わせた対応をし、時間が取れるようであれば保護者に保育の様子を一緒に見てもらうこともあります。保育はできるだけ同じ保育者が対応できる体制を作り、送迎時にはていねいに園での様子を伝えることで、保護者が不安なく預けていけるよう配慮しています。
	サブカテゴリー2の講評補足
非公表コメント	サブカテゴリー2の講評補足

3 個別状況の記録と計画策定

サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12

評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
あり	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	
あり	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	
あり	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	

評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
あり	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	
あり	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	
あり	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	
あり	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	
あり	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直しをしている	

評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
あり	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	
あり	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	

評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
あり	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	
あり	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	

サブカテゴリ-3の講評

子どもの活動の様子を「エピソード記録」として作成し、会議の場などで共有しています
 入園時にお聞きした子どもや家庭の情報に加え、園での活動の様子、食事や排泄、睡眠といった生活面での情報などを「個別記録」として規定の書式に入力し、管理しています。毎月子どもの発達年齢や園での活動を踏まえ、担当する保育者が「個別計画」を立てています。月末には「個別省察」としてその子どもの姿を振り返り、記録しています。また子どもの活動の様子を「エピソード記録」として作成し、それらを会議の場などで共有しています。「週会議」では、保育活動の展開やその関連を1枚の図に表すことで、保育の共有を深めています。

理念や方針、保育目標に基づいて全体的な計画が立てられています
 児童憲章や子どもの権利を踏まえ、理念や方針、保育目標にもとづいて全体的な計画が立てられています。大枠の型がどろんこ会グループで作成され、全職員参加のもと、「策定会議」として2月から3月にかけて検討し、園に適した形に整えています。園の保育目標と日々の保育実践、また食育計画や保健計画などの整合性も持ちながら、前年度の反省と評価を盛り込んでいます。全体的な計画を踏まえ、年齢ごとの年間計画、月案、週日案といった計画に落としこみ、それぞれの計画期間ごとに評価、反省を加え、それらを次期の計画に反映させています。

一人ひとりの発達状況をもとに養護と教育の観点から「個別計画」を作成しています
 0~2歳児は一人ひとりの発達状況をもとに「個別計画」を作成し、月ごとに養護と教育の観点から振り返り、次月の計画に反映させています。特別な支援が必要な子どもに関しては年齢にかかわらず個別の記録に加え、「課題の整理表」を活用して子どもの姿を捉え、それを担当する職員を中心としたケース会議で検討しています。こうした個別の記録に加え、エピソード記録なども活用し、子どもの姿、特性や配慮について職員間で共有しています。年度の変わり目には担当者間で「引き継ぎ会議」を開催しています。

公表コメント

非公表コメント

サブカテゴリ-3の講評補足

サブカテゴリー5	
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重 サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)	
評価	標準項目
あり	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている
あり	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
あり	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している
あり	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている
あり	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている
サブカテゴリー5の講評	
公表コメント	個人情報の取り扱いについてマニュアルを整備し、研修などで定期的に確認しています 個人情報の取り扱いについて、職員が守秘義務やその意味について理解し、適切に扱えるようマニュアルを整備し、定期的な研修などにより確認しています。入園時の登録情報に、個人情報の取り扱いや写真の掲載に関する項目を設けています。外出時に名前が見えないよう名札を付けるかどうかについて入園時に確認しています。活動の様子を伝えるのに、ホームページなどにたくさんの写真を用いていますが、これらへの掲載の可否も保護者に確認しています。子どもが転園などで子どもの情報を提供するときには、保護者の同意を得ています。
	さまざまな場面で、外部からの視線や子どもの羞恥心に配慮した工夫があります 着替えは外部からの視線を避け、屋上や園庭で水遊びをする時にもタープを張るなどして目隠しを作っています。おねしょの際には、子どもの羞恥心に配慮し、そとほかの子どもから見えないところで着替えるなどの配慮があります。おむつ替えの場所もほかの子どもたちから見えないように目隠しを作っています。性に関する絵本を置いたり、5歳児を対象にプライベートゾーンの大切さについて話す機会を作ったり、さらに保護者に向けた性教育に関する研修を開催するなど、保護者も含めた3～5歳児からの性教育に取り組んでいます。
	子どもの興味関心を大切にし、子どもが自ら選択できるよう配慮しています 子どもの名前を呼ぶ時には、呼び捨てやあだ名を付けて呼ぶことはしないことを徹底しています。保育では子どもの興味関心を大切にすることを重視し、子どもが自ら活動内容やその時間を選択できるような配慮があります。半年に一回、人権チェックの自己評価を全職員が行うことで、子どもの人権について改めて確認するとともに、自身の保育を振り返って、子ども一人ひとりを尊重した保育となっているかを確認しています。今年度は、全職員の参加する会議で、施設長が講師となり、保育品質マニュアルにある虐待、人権についての研修を実施しました。
	サブカテゴリー5の講評補足
非公表コメント	

サブカテゴリ6								
6	事業所業務の標準化							
	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5							
	評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇)							
	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評価</th> <th>標準項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">あり</td> <td>1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">あり</td> <td>2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">あり</td> <td>3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目	あり	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	あり	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	あり
評価	標準項目							
あり	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている							
あり	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている							
あり	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している							
	評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)							
	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評価</th> <th>標準項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">あり</td> <td>1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">あり</td> <td>2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目	あり	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	あり	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	
	評価	標準項目						
	あり	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている						
あり	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている							
サブカテゴリ6の講評								
<p style="text-align: center;">どろんこ会グループ共通のマニュアルにより、保育の考え方や手順が明確になっています</p> <p>「保育運営マニュアル」には、衛生管理、感染症、危機管理、虐待対応、苦情処理など、それぞれの項目ごとに手順が明確になっています。職員一人1冊配られている「保育品質マニュアル」には、保育の計画立案の方法や記録、情報の取り扱いや保護者対応、地域連携、虐待、苦情処理、給食や危機管理などの項目があり、必要な技術や知識が網羅され、一定のレベルで保育を進めることができます。これらの内容やどろんこ会グループの設定する書類の形式などで改善したいことがあれば、グループの会議で施設長が申し出ることで反映される仕組みがあります。</p> <p>内部監査を行うことで、保育の手順などについて定期的に確認しています</p> <p>入職時には「保育運営マニュアル」「保育品質マニュアル」の内容について研修を受けることで、職員はその内容の理解を進め、また入職後も定期的な研修などで学ぶ機会を持っています。これらの内容に基づいて実際の保育が進められているか、内部監査室による内部監査を行うことで、定期的に確認しています。特に命や安全に関する項目や保育内容、保育環境に関してはマニュアル通りに実施できているかを第三者的な視点から確認しています。またどろんこ会グループとして国際的な品質管理認証を受けるなど、一定以上の業務レベル維持に努めています。</p> <p>衛生管理に関しては保育室などに、その手順や注意事項が掲示してありました</p> <p>「保育品質マニュアル」に掲載されている内容に沿ったフローチャートを保育室内に掲示することで、事故やけがなどが発生したときでも円滑に対応できる体制があります。マニュアルで定められた事故防止チェックリストや設備点検チェックリストを用いることで、定期的に設備や配慮に漏れがないかを確認しています。衛生管理に関しては保育室をはじめ、調乳室やトイレなどさまざまな所にその手順や注意事項が掲示してありました。職員はわからないこと、迷うことがあれば、すぐに「保育品質マニュアル」で手順などを確認することができます。</p>								
	サブカテゴリ6の講評補足							
非公表コメント								

Ⅲ サービスの実施(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 35/35	
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(000000)	
	評価	標準項目	
	あり	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	
	あり	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	
	あり	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	
	あり	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	
	あり	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	
	あり	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	
評価項目1の講評			
公表コメント	子どもたちの自由で自主的な活動を、保育職員は連携を取って見守り、援助しています		
	園は1階に3～5歳児、2階に0～2歳児の保育室、3階はホールと調理室、4階は屋上庭園というような配置になっており、各階ごとの異年齢保育を基本としています。保育室には積み木、ままごと、絵本などが設定されたコーナーが設置され、子どもたちが興味のある遊びを自由に遊び込める環境があります。保育職員は担当する配置を決め、子どもたちが自由に園内を行き来する中、自由で自主的な活動をチームとして連携を取って見守り、援助しています。ICT機器なども活用することで、子どもたちがどこにいても目が届く体制を整えています。		
	「インクルーシブ生活」として、子どもたちが刺激を受け合う保育を進めています		
	園では「インクルーシブ生活」として支援の必要の有無で分ける保育ではなく、全ての子どもが助け合い、刺激を受け合う形の保育を進めています。施設長は、子どもたちがいっしょに過ごすことで、得意不得意な面だけでなく、互いの良さ、すごさを知ることができると考えています。職員は個別の支援計画の策定や定期的なケース会議を開催することで、個々の特性を理解し、無理なく子どもたちがかわりあえる環境構成や活動・行事の工夫を検討しています。区の発達支援センターなど専門機関と連携し、定期的な相互視察や話し合いの機会を設けています。		
非公表コメント	我慢するだけでなく、トラブルには子ども同士で話し合って解決を図る姿があります		
	異年齢での保育を基本としていることから、大きい子が小さい子の面倒を見たり、小さい子は大きい子の姿から学んだり、やってみようしたりする姿が多くあります。小さい子のやることだからと我慢するだけでなく、どうすればいいのかを子ども同士で話し合い、解決を図る姿があります。子ども同士のトラブルでは、保育者が子どもの気持ちを代弁し、お互いの気持ちに寄り添うこと、保育者が一方的に白黒を付けないような対応に努めています。経緯の説明では、保護者の納得がより得られるよう、説明の方法などを今一度検討されてははいかがでしょうか。		
評価項目1の講評補足			

2	評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	
	あり	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	
	あり	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	
	あり	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	
評価項目2の講評			
公表コメント	登園時の視診などにより、子どもの体調や家庭での活動状況を確認しています		
	登園時には視診、検温による健康チェックに加え、保護者から家庭での様子について聞き取ることで、子どもの体調や家庭での生活状況を確認しています。園で導入しているスマートフォンアプリの機能を使い、家庭と園とで体調の変化や活動の様子、0～2歳児では食事や睡眠、排泄の状況なども共有しています。保護者から聞いた情報は「シッターノート兼お迎え伝達ノート」に記録することで時間差で出勤した職員とも共有しています。体調がすぐれず、いっしょに散歩に出られないなどの場合には室内活動に変更し、こまめに検温や体調確認をしています。		
	自分でできることに満足感を持って基本的習慣を身に付けられる環境があります		
	異年齢での保育を進める中で、食事や着替えなど基本的な生活習慣は無理に教えるのではなく、大きい子どもの姿を見てまねたり、発達に合わせて自分でできるよう促したりする支援に努めています。子ども同士が手本となったり、手伝ったりするなかで満足感を持って基本的習慣を身に付けられる環境があります。トイレトレーニングでは子どもの性格を含めた特徴を把握した上で、タイミング良くトイレに誘うなどの工夫をしています。家庭での生活リズムに合わせて午睡の時間をずらしたり、眠れないようであれば静かに遊べる環境を整えています。		
	3分間対応の内容や伝え方について今一度検討してみたいかがでしょうか		
	降園時には「3分間対応」として、その日の子どもの様子をなるべく詳しく保護者に伝えていけるよう取り組んでいます。遅番の職員であっても振り返りや引き継ぎを徹底することで、日中の子どもの様子をわかりやすく伝えられるよう努めています。今回の利用者調査におけるこの項目では、できているとの回答が多く見られましたが、職員によるばらつきもあるようです。単にその日にあったことを伝えたり、3分間話したりするにとどまらず、3分間対応の中身はどうか、その内容や伝え方について今一度検討してみたいかがでしょうか。		
非公表コメント	評価項目2の講評補足		

3	評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している	評点(〇〇〇〇〇〇)
	評価	標準項目
	あり	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている
	あり	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している
	あり	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している
	あり	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている
	あり	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている
あり	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	
評価項目3の講評		
公表コメント	畑仕事などを通して、働くことや命や食べ物について気づくことができる環境があります	
	子どもが畑仕事や園で飼っているやぎ、うさぎの世話などを通して、働くことや命や食べ物について気づくことができる環境があります。園庭はありますが、午前中はお散歩など園外での活動を多く取り入れ、体力作りや季節の変化を感じ取るなど、さまざまな経験をする機会としています。散歩には「宝物袋」として、自分の気に入った物を見つけて持ち帰り、収集を楽しんだり、園に戻ってからの遊びにつなげたりしています。園外の畑に加え、季節に応じて園の屋上ではいちごを、園内のプランターではかいわれ大根やブロッコリーなどを育てていました。	
	5歳児では、テーマを決めて子ども同士で話し合いを持つ時間を定期的に設けています	
非公表コメント	0歳児では子どもの表情やしぐさを見ながら話しかけたり、共感したりする応答的なかわりをする中で、安心して自己表現できるよう努めています。言葉でのやりとりが十分にできなくとも、保育者が子どもが見ているものや思っていることを言葉にしてあげたり、伝えあったりすることで語彙を増やし、言葉でのやりとりが円滑に進むよう支援しています。3歳になると子ども同士の話し合いもできるようになり、5歳児では「どろんこ会議」として、散歩先や行事の内容など、テーマを決めて子ども同士で話し合いを持つ時間を定期的に設けています。	
	リズム体操を日課として取り入れることで、身体機能の発達や表現力を向上させています	
	リズム体操を日課として取り入れることで、身体機能の発達や表現力を向上させています。毎日継続することで、さまざまな動きを体験するとともに、たくさんの歌もうたえるようになっていきます。公園に行ったり、園のホールで遊ぶ中で、体を動かしながらルールのある遊びを取り入れています。大きい年齢の子どもが遊びをリードすることが多いですが、小さい子どもにはルールを教えたり、どうしたらみんなで楽しく遊べるか話し合い、ルールを変えたりできるよう保育者は援助しています。こうした姿はままごとなどの室内遊びでも見られます。	
評価項目3の講評補足		

4	評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	
	あり	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	
	あり	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	
評価項目4の講評			
公表 コメント	年間行事計画に基づき、運動会や発表会、どろんこ祭りなどの行事を行っています		
	年間行事計画に基づき、運動会や発表会、どろんこ祭りなどの行事を行います。年間の行事や体験活動を決める際には発達も考慮し、子どもたちの姿から、どんな経験が必要か、どんな活動をさせたいかということを一から全職員が話し合い、アイデアを出し合っています。10月の運動会では、0～5歳児が小学校の体育館を借りてリレーをしたり、遊戯を踊ったり、0～2歳児では保護者といっしょに競技を楽しんだりしました。保護者競技の綱引きもあり、園のブログには子どもたちが応援旗を作ったり、話し合いをしたりする姿が掲載されていました。		
	有志の保護者たちと園職員とで「どろんこ祭り」の企画運営を進めました		
有志の保護者組織である「どろんこサポーター」が夏祭りとして「どろんこ祭り」の企画運営に携わっています。園職員との話し合いではいっしょにアイデアを出し合い、的当てやお菓子釣り、背景を投影した写真スポット作り、宝探しなどをしました。また子どもたちが作ったおみこしを担いだり、盆踊りをおどったりして、親子で楽しみました。行事は企画の段階からその進捗状況を保護者に向けて配信することで、家庭でも行事に向けて気持ちが盛り上がるよう工夫しています。発表会では、3～5歳児が自分たちで作った話をもとに劇を計画しています。			
子どもたちが作物を育てることを楽しみながら、食べるまでの体験を大切にしています			
日常的に散歩など園外に出かけ、季節を感じたり、さまざまな活動を楽しんだりしています。園で借りている畑にバスに乗って出かけ、「畑仕事」で栽培をしています。収穫した野菜などは園に持ち帰り、子どもも調理に加わるなど、子どもたちが作物を育てることを楽しみながら、食べるまでの体験を大切にしています。また、商店街ツアーとして近隣のお店や公共施設に出向き、そこでの仕事を見ることで、さまざまな職業や仕事について知る機会があります。月に1回程度、園の前にお店を出し、収穫した作物などを売る「NDはにーぼっと」活動があります。			
非 公表 コメント	評価項目4の講評補足		

5	評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	
	あり	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	
評価項目5の講評			
公表 コメント	保育環境やおもちゃを工夫し、好きなことをして過ごせるよう配慮しています		
	7時から20時30分まで、13時間30分の開所時間となっています。長時間の保育では、部屋の配置を少し変えたり、パズルや絵本、ブロックなど一人でもできるおもちゃを多く出したりし、好きなことをして過ごせるよう配慮しています。人数の少ない早朝や夕方遅い時間帯は、家庭的な雰囲気の中でくつろいで過ごせるよう、保育士のひざの上で絵本を読んだり、カードゲームなど少人数でできる遊びを取り入れています。年齢の小さい子どもだけでなく、大きい子どもも職員と個別に過ごせるようにし、甘えを受け止めるようなかかわりを多くしています。		
	職員が連携し、長時間の保育でも切れ目なく保育できる体制を組んでいます		
職員は中番や遅番といったシフトを組むことで、長時間の保育でも切れ目なく保育できる体制を組んでいます。登園時に保護者から伝えられた子どもの体調や連絡事項などは、担当する職員間で共有しています。子どものけがや体調の変化など、お迎え時の申し送り事項などがある時には、申し送りのノートや伝達用のボードを使い、確実に保護者に伝えることができるよう引き継ぎを行っています。お迎えの時には担当がいなくても、対応する職員が引き継いだ情報に加え、自分が担当していた時間帯での子どもの様子も交えて伝えるようにしています。			
急な保育時間の変更にも、可能であれば受けられるよう職員体制を整えています			
日中は活動的な内容を多くしつつ、夕方は安全面も配慮し活動量を抑え、静かな遊びを多く取り入れています。午後の時間は園庭に出て遊べたり、子育て支援室に移動して絵本を読んだり、長時間の保育でもメリハリをもって過ごせるようにしています。急な保育時間の変更にも、職員状況を確認し、可能であれば受けられるよう余裕を持った職員体制を整えています。19時以降のお迎えになる子どもには、保護者の要望により夕食を提供しています。急な変更により夕食の用意が間に合わない場合にも、必要に応じて補食を出すなどの配慮があります。			
非 公表 コメント	評価項目5の講評補足		

6	評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(0000)
	評価	標準項目	
	あり	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	
	あり	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	
	あり	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	
	あり	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	
評価項目6の講評			
公表 コメント	おなかが空いた状態で食事に入れるよう午前中は体を動かす活動を十分に行っています 子どもたちが風や光を感じながら食事を楽しめるよう縁側給食を基本としています。おなかが空いた状態で食事に入れるよう午前中は散歩に出かけるなど体を動かす活動を十分に行っています。2歳くらいになると自分で食べられる量に応じて盛り付けを加減し、少しからでもいろいろなものを食べてみようという意欲につなげています。アレルギー対応食は「食物アレルギー除去食申請書」を提出してもらい、調理員と施設長、担任とで面談をした上で提供しています。提供に際しては、トレーを別にし、声を掛け合うことで誤食防止に努めています。		
	園の畑で採れた物を取り入れたり、5歳児が考えたメニューを献立に入れたりしています 給食はどろんこ会グループで統一した献立をもとに、園の畑で採れた物を取り入れたり、5歳児が考えた献立を取り入れたり、園の活動に応じて作成しています。離乳食は一人ひとりの発育に応じて食べる量やそしゃく具合などを担任と調理員も共有し、形状や量、堅さなどを変えています。子どもたちの反応や好き嫌いについても聞き取り、グループの給食会議で伝えることで、献立作りに反映させています。子どもの希望に応じて、園での人気献立のレシピを子どもから保護者に手渡し、家で作ってもらうなど、家庭と連携した食事提供に取り組んでいます。		
	「命あるものを食している」ことを知り、食の循環などを学べる食育に取り組んでいます 食育計画表をもとに、「命あるものを食している」ことを体験的に知り、食への興味関心を高められるよう食育に取り組んでいます。園の前のプランターや園で借りている畑では、かぶやブロッコリー、いちごなどを栽培しています。また園庭で取れるみかんでみかんシロップを作ったり、野菜を洗って皮をむいたりするなど、子どもたちが栽培した物を調理する機会が豊富にあります。絵本に出てくる食材や料理を実際に子どもといっしょに作るなど、保育と連携した食育に取り組んでいます。残菜を肥料にして畑で使うなど、食の循環を体験して学んでいます。		
非公表 コメント	評価項目6の講評補足		

7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(000)
	評価	標準項目	
	あり	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	
	あり	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	
	あり	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	
評価項目7の講評			
公表 コメント	看護師が園児の健康状態を確認し、けがなどの場合には迅速に対応できる体制があります 子どもの健康状態は、登園時の受け入れで視診を行い、口頭でも家庭での様子や睡眠、食欲などを聞いています。朝のうちに看護師が園児の様子を見て回り、健康状態で心配などあれば症状を担任と共有しています。けががあった場合にはその傷を写真に撮り、散歩中であっても必要に応じて看護師が状況を確認しながら処置を指示できる体制があります。通院の必要があれば看護師が付き添い、医師とのやりとりをしています。投薬の必要な子どもには「与薬依頼票」により、必要な情報を記入してもらった上で1回分の薬を預かっています。		
	子どもたちが健康でいるための活動や保健指導を計画的に行っています 年間保健計画を作成し、子どもたちが健康でいるための活動や保健指導、そこでの保育者の配慮について明確にしています。看護師はこれをもとに、虫歯についての紙芝居を読んで歯みがき指導をしたり、手洗いチェッカーを使って手洗い指導をしたり、熱中症予防や手洗いうがいの効果などについて伝えています。先月は「うんち」について年齢ごとに内容を変え、子どもたちが興味を持てるよう工夫しながら話をしました。6月と11月には健康診断と歯科健診で子どもたちの健康状態を確認し、アドバイスをもらったり、相談に乗ってもらったりしています。		
	必要な習慣や注意点などについて「保健だより」を発行し、保護者に伝えています 季節ごとにはやる感染症や、季節に応じて健康でいるために必要な習慣や注意点などについて「保健だより」を発行し、保護者に伝えています。1月号には園で推奨している裸足保育・薄着の子育てに関する記事があり、これは園のホームページでも見ることができます。感染症の発生状況については、掲示やアプリで通知し、保護者への注意を促しています。乳幼児突然死症候群(SIDS)予防のため、1歳児は5分ごとに睡眠チェックを行い、寝ている体位、布団のかかり具合、呼吸の状態などをチェックし、それをアプリを使って記録しています。		
非公表 コメント	評価項目7の講評補足		

8	評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	
	あり	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	
	あり	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	
	あり	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	
		あり	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している
評価項目8の講評			
公表 コメント	就労状況の変更や個々の事情に伴う保育時間の変更にも、柔軟に対応しています		
	入園時にいただいた書類から、就業時間や就労状況について把握し、それによって保育時間を定めています。残業などにより保育時間が急遽変更になる場合にも、職員の状況が整えば柔軟に対処しています。就労状況の変更や個々の事情に伴う保育時間の変更にも、職員のシフトを調整することで対応しています。就労状況だけでなく、家庭育児が困難であるようなら土曜日保育の利用もできることを伝えたり、上の子どもともしっかりかかわる時間が必要と思われる状況が見えるときには、きょうだいの子もだけ預かるといった配慮があります。		
	保護者懇談会は、保育についての理解を深め、保護者同士の懇談の機会としています		
	年2回の保護者懇談会では、子どもたちの姿を成長報告として伝えるとともに、今後半年間の活動やそこでのねらいを伝えています。その後には保護者同士の懇親の時間を取り、子育て情報の交換をしたり、保育内容についての意見交換をしたりと、保育内容への理解を深める機会としています。参加できなかった保護者には、後から資料を配付して周知しています。有志の保護者が「どろんこサポーターズ」としてどろんこ祭りの企画運営や懇親会企画、懇談会前の意見交換などにかかわっています。コロナ感染症のため懇親の機会は現在持ていません。		
	エピソード記録などを活用して、保育についての理解を深めています		
	送迎時の伝達だけでなく、ポートフォリオやエピソード記録など保育の記録を活用して、保育についての理解を深めています。「保育参加」として、保護者が保育者となって保育を体験してもらうことで、ほかの子どもも交えた子どもの姿を知り、保育をより深く理解してもらえる取り組みがあります。保護者面談を必要に応じて設け、保護者の意見を聞いたり、子どもの成長や発達に関する相談を受けたり、また保護者の悩みを聞き取ることで、心理的負担を軽減できるよう支援しています。現在はコロナ感染症の状況を確認しつつ、進めているとのことでした。		
非 公表 コメント	評価項目8の講評補足		

9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	
	あり	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	
評価項目9の講評			
公表 コメント	地域の商店街や図書館を訪問する「商店街ツアー」をしています		
	週に1回、地域の商店街や消防署、図書館、区役所など、さまざまなお店や公共施設を訪問し、その場所や仕事の様子を見せてもらう「商店街ツアー」をしています。大人と目を見て話すことも目的の1つにしていることから、そこでは子ども自らが疑問に思ったことを質問し、教えてもらっています。月1回程度の「銭湯でお風呂の日」では、契約している銭湯に行き、地域の方との交流の機会としています。近隣の小学校を訪問したり、高齢者施設を訪問したりしての世代間交流などもありましたが、現在はコロナ感染症のため中止しています。		
	地域の子育て親子に園庭や屋上、子育て支援室を開放し、さまざまな事業を行っています		
	子育て支援活動「ちきんえっぐ」として、地域の子育て親子に園庭や屋上、子育て支援室を開放し、そこでは思い思いに遊んですごしたり、子育てに関する相談を受けたりしています。参加者が親子でカステラやマフィンなど調理を楽しめる「自然食堂」、自然物などを使った製作活動を「芸術学校」「自然学校」として定期的に開催しています。ほかにも近くの公園に行き、地域の子育て親子が絵本や紙芝居、しゃぼん玉などをやる「青空保育」、子育てに関する研修「寺親屋」など、地域の子育て親子向けの事業に積極的に取り組んでいます。		
	子育て支援活動を伝える「ちきんえっぐだより」を毎月発行しています		
	子育て家庭に向けた園の子育て支援活動を伝える情報誌「ちきんえっぐだより」を毎月発行しています。ここには園庭開放など今月の予定と前月の活動報告、「青空保育」や「寺親屋・地域公開スキル講座」「芸術学校」「自然食堂」の案内を掲載し、その内容はホームページからも見ることができます。どろんこ会グループのホームページにはさまざまな園の記事が掲載されており、子育てに役立つ情報を多く見ることができます。子育てに関する種々の取り組みの中には、参加者が少ないものもありますので、広報などの工夫をされてはいかがでしょうか。		
非 公表 コメント	評価項目9の講評補足		

調査対象	保育園を利用している58世帯を対象に調査を実施しました。在園児は70名で、兄弟姉妹が同園に通う世帯は年齢の一番低い子どもについて回答してもらいました。		
調査方法	アンケート調査は無記名方式で、配付は施設を通じて利用者へ手渡し、回収は保護者から直接評価機関へ郵送する方法によりました。調査結果は選択回答だけでなく、記述式の回答についても匿名性に配慮してまとめ、保育園に報告しました。		
利用者総数	70		
利用者家族総数(世帯)	58		
共通評価項目による調査対象者数	58		
共通評価項目による調査の有効回答者数	37		
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	63.8%		

利用者調査全体のコメント

保育園に対する総合的な感想は、「大変満足」が16人(43.2%)、「満足」が16人(43.2%)で「満足」以上の回答は合計32人(86.4%)でした。

自由意見には、「子どもたちの自主性が尊重されています。のびのびと保育をしていただいております、大変ありがたいです」「本当にいい先生ばかりで、若い先生も含め教育が行き届いているといつも感心しています」「年齢に関係なく交流をしているので、保育園にきょうだいのような存在ができます」「先生方が仲良く、楽しそうに働いているのを感じられるので安心します」「日々の活動量が、本当に多いと思います」「子どもが楽しく通えているので、満足しています」「本社による基本方針がしっかりしており、共感しています」など園への信頼と感謝を寄せる声が多く見られました。

項目別に見ますと、「保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか」「保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか」で97.3%、「保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか」で94.6%の保護者がそれぞれ「はい」と回答し、とても満足度が高い様子が見取れます。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	36	1	0	0
「はい」が97.3%、「どちらともいえない」が2.7%でした。 自由意見には、「リズム体操を毎日やって本当に感謝です」「戸外活動も多く、たくさん身体を動かしています」「のびのびと個性を尊重して下さる保育で、ぐんぐん成長しているように思います」「園庭での泥遊びや、やぎ、うさぎの飼育、梅仕事、味噌作りなど、自然や食に関する取り組みが多い点が素晴らしいと思います」「『自分でやる』と主体的に取り組む姿が多く見られるようになりました」などの声がありました。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	35	1	1	0
「はい」が94.6%、「どちらともいえない」が2.7%、「いいえ」が2.7%でした。 自由意見には、「イベントも多く、楽しそうです」「外遊び、長距離散歩、園内での走りまわられるホール遊びをしてもらえるのがありがたいです」「外遊び、食育、工作、銭湯など体験を重視し、のびのびとした五感に触れる保育をしてくださっていることを感謝しています」「基本的には自由で、子どもたちの好きなことをのびのびとやらせてくれるところが良いと思っています」などの声がありました。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	31	5	0	1
「はい」が83.8%、「どちらともいえない」が13.5%、「無回答・非該当」が2.7%でした。 自由意見には、「お米を中心とした食事、続けてほしいです」「子どもたちに皮むきや、いっしょに梅シロップづくりなどを体験させているのは、とてもいいと思います」「気に入ったメニューがあったとき、お願いをするとレシピを教えられるので、家でのレパートリーも増えて助かります」「食事、おやつについては、とても満足しています」などの声がありました。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	36	1	0	0
<p>「はい」が97.3%、「どちらともいえない」が2.7%でした。 自由意見には、「自然と触れあえる機会が多いです」「都会にいながらも、畑の体験など、いろいろな体験ができる場所も素晴らしいと思います」「虫などを捕まえて育てるなど、自然とのかかわりを大切にしています」「園庭にやぎがいます。はだし保育やどろ遊び、畑仕事や田植え、稲刈りなど、家庭ではなかなかできない取り組みが充実していて、とても良いと思います」などの声がありました。</p>				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	32	4	0	1
<p>「はい」が86.5%、「どちらともいえない」が10.8%、「無回答・非該当」が2.7%でした。 自由意見には、「対応をお願いしたことがないのでわかりません」などの声がありました。</p>				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	17	14	6	0
<p>「はい」が45.9%、「どちらともいえない」が37.8%、「いいえ」が16.2%でした。 自由意見には、「少し不安に思うことがあります」などの声がありました。</p>				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	28	7	2	0
<p>「はい」が75.7%、「どちらともいえない」が18.9%、「いいえ」が5.4%でした。 自由意見には、「運動会の日程は、もう少し早く決定してほしいです」などの声がありました。</p>				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	21	13	3	0
<p>「はい」が56.8%、「どちらともいえない」が35.1%、「いいえ」が8.1%でした。 自由意見には、「先生方の子どもたちへの対応が良いです」「子どもの発育状態、個々の性格もふまえて、日々接してくれている、一人ひとりをちゃんと見てくれているという安心感があります」などの声がありました。 その一方で、「先生によります」という意見もありました。</p>				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	29	7	1	0
<p>「はい」が78.4%、「どちらともいえない」が18.9%、「いいえ」が2.7%でした。 自由意見には、「どろんこあそびなどで、めちゃくちゃさせるのに、その割にきれいな状態をキープしています」「少し乱れ気味の日もありますが、個人的には家みたいで好きです」などの声がありました。</p>				
10. 職員の接遇・態度は適切か	29	7	1	0
<p>「はい」が78.4%、「どちらともいえない」が18.9%、「いいえ」が2.7%でした。 自由意見には、「皆さん明るく挨拶をしてくださり、とてもいい雰囲気です」「先生方の保護者たちへの対応が良いです」「先生方が明るく元気です」「保育士の子どもたちや親への接し方から、日々学びを得られます。励まされます」「先生方はいつも笑顔で、子どもの様子を伝えてくださいます」などの声がありました。</p>				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	32	3	2	0
「はい」が86.5%、「どちらともいえない」が8.1%、「いいえ」が5.4%でした。 自由意見には、「発熱時やけがの対応に、信頼があります」「ケガの手当てなど、とてもいいですね」などの声がありました。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	25	8	3	1
「はい」が67.6%、「どちらともいえない」が21.6%、「いいえ」が8.1%、「無回答・非該当」が2.7%でした。 自由意見には、「けがの状態や、その時の状況などをとても丁寧に説明してくれます」「まだトラブルにあったことがないため、わかりません」などの声がありました。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	32	4	1	0
「はい」が86.5%、「どちらともいえない」が10.8%、「いいえ」が2.7%でした。 自由意見には、「『お散歩に行きたくない』『プールがうれしい』など、子どもの気分や気持ちを尊重してくれています」「親身に子どもに寄り添ってくれているのを感じます」「子どもそれぞれの気質・体質に合わせ柔軟に対応くださりとても感謝しております」「担任関係なく、子どもたち一人ひとりを見ていて、大事にしてくれているのがとてもよくわかります。子どもたちのやりたいことを、とても尊重してくれていると感じます」などの声がありました。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	32	4	0	1
「はい」が86.5%、「どちらともいえない」が10.8%、「無回答・非該当」が2.7%でした。 自由意見には、「子ども同士のけんかや、病気の疑いなどは、他の人に聞こえないように伝えてくれています」などの声がありました。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	30	6	1	0
「はい」が81.1%、「どちらともいえない」が16.2%、「いいえ」が2.7%でした。 自由意見には、「性教育や足育などに関して、わかりやすく取り組もうとしていることへの説明が、アプリなどで配信されるので、理解ができます」「毎日、細かく一日の様子を伝えてくださるので、ありがたいです」などの声がありました。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	20	14	3	0
「はい」が54.1%、「どちらともいえない」が37.8%、「いいえ」が8.1%でした。 自由意見には、「伝えるに至っていないため、わかりません」などの声がありました。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	16	15	6	0
「はい」が43.2%、「どちらともいえない」が40.5%、「いいえ」が16.2%でした。 自由意見には、「職員以外の人に、どのように相談できるかを知りませんでした」「特に不満は感じませんが、そのような説明を受けたことはありません」などの声がありました。				